

Ruby bizグランプリ実行委員会主催  
新たなビジネス価値を世界へ発信するITビジネスグランプリ  
**Ruby biz Grand prix 2015を開催！**

プログラミング言語「Ruby」で躍進した新進気鋭のIT企業30社中  
第1回大賞はトレジャーデータ株式会社と株式会社ユビレジに決定！

このたび、Ruby biz グランプリ実行委員会（事務局：島根県 商工労働部 産業振興課）は、2015年12月17日（木）に『Ruby biz Grand prix 2015』を開催いたしました。

『Ruby biz Grand prix 2015』は、Rubyを活用して、ビジネスの領域で新たな価値を創造し、イノベーションを起こしたサービスや商品を表彰するグランプリです。表彰式は主催者を代表して溝口善兵衛島根県知事の挨拶からはじまり、島根県のRubyを軸にした取り組みやグランプリに込められた想い、Rubyの可能性についてお話をされました。来賓挨拶では経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課・課長 渡邊昇治様に登壇いただき、今後、優秀なIT人材の確保が深刻になる時代において、今回受賞された方々が日本のIT業界を牽引する手本になってほしいと、今後の国内のIT業界自体の発展への期待を語られました。

メインイベントとなる受賞者発表では、国内外からノミネートされた30事例から大賞2点と特別賞3点に加え、審査の過程で新たに設けられたエンタープライズ パイオニア賞2点が発表されました。大賞には「トレジャーデータ株式会社」と「株式会社ユビレジ」、特別賞には「HipByte」、「GMOペパボ株式会社」、「株式会社マネーフォワード」、エンタープライズパイオニア賞には「ベニックスソリューション株式会社」と「株式会社テクノプロジェクト」がそれぞれ選出され、トロフィーと賞状が授与されました。表彰後は、大賞と特別賞受賞企業からRubyを活用したサービスの特徴や優位性についてプレゼンテーションをしていただきました。表彰式の締め括りには「Ruby」開発者であり審査員長を務めるまつもとゆきひろさんより、各賞の選考理由を語っていただきました。第1回のグランプリ選定ということや、応募されている企業の業界も異なることから、選定は困難を極めたとのこと。まつもとさんは、「ソフトウェア開発というのは、社会的なパソコンに向き合うイメージとは異なり、実はとても人間的な作業なので、これからはRubyをつくっている人達も使っている人達も共に力を合わせて未来を作っていけたらと思います。」とコメントされ、Rubyを活用したビジネスがますます活性化されることを感じられるグランプリとなりました。



## ●主催者代表挨拶 溝口善兵衛島根県知事

表彰式は、島根県知事である溝口善兵衛氏の主催者代表挨拶によってはじまりました。溝口知事は、島根県ではRubyを軸に地域IT産業の振興に注力しており、県内IT企業とも連携し、様々な取組みを進めていることを述べられました。その上で、今回第1回目の開催となる「Ruby biz Grand prix 2015」について、「Rubyを活用して、ビジネス領域で新たな価値を創造したサービス事例を表彰し、革新的な企業の挑戦を世界にアピールすることで、Rubyによるビジネスの拡大を図ることを目的としてスタートした」と意気込みを語られました。

## ●来賓挨拶 経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課・課長 渡邊昇治様

来賓挨拶では、経済産業省 商務情報制作局 情報処理振興課・課長である渡邊昇治様からご挨拶をいただきました。

渡邊様は経済産業省のIT対策への取り組みとして、①IT活用の促進、②情報セキュリティ対策や個人情報保護など安全・安心対策の推進、③人材育成や研究開発の基盤的な取り組みを3本柱として進めているとコメントされました。しかし今後ITの利活用はますます進展するにも関わらず、日本国内での優秀なIT人材不足が予想される為、第1回「Ruby Biz Grand prix 2015」受賞者の方々へ、今後の日本のIT業界を牽引して欲しいと激励されました。

## ●エンタープライズ パイオニア賞表彰

エンタープライズ パイオニア賞の表彰にはベニックスソリューション株式会社の倉本敦司様と、株式会社テクノプロジェクトの吉岡宏様が登壇され、プレゼンターの正村審査委員から賞状とトロフィーを授与されました。

倉本様（ベニックスソリューション）は受賞の喜びを「ものづくりを支えている製造業として、地道な活動をしてきたが、日頃の活動が評価されて嬉しい。」と受賞の喜びを表現され、吉岡様（テクノプロジェクト）は医療情報ネットワーク「Mame-NET」が、医療のリソースが不足しているベトナムで、大変重宝されていることを伝えた上で、受賞できたことに感謝の気持ちを表現されました。

## ●特別賞表彰

特別賞の表彰にはHipByteのLaurent Sansonetti様、GMOペパボ株式会社の佐藤健太郎様、株式会社マネーフォワードの辻庸介様が登壇され、プレゼンターの溝口知事から賞状とトロフィー、副賞の30万円を授与されました。Sansonetti様（HipByte）は、設立5年の中で、成長を支えてくれた日本のユーザーや家族、Ruby開発者のまつもと様に感謝を述べられました。佐藤様（GMOペパボ）は「今後は現在展開している他の事業も、Rubyでの開発に寄せていきたい」とコメントされました。また辻様（マネーフォワード）は「これからは日本を代表する企業として世界で羽ばたけるよう良いサービスを作っていきたい！」と今後の目標を語られました。



## ●大賞表彰

大賞の表彰にはトレジャーデータ株式会社の古橋貞之様と、株式会社ユビレジの木戸啓太様が登壇され、プレゼンターのまつもとゆきひろ様から賞状とトロフィー、副賞の100万円が授与されました。

古橋様（トレジャーデータ）は、「エンジニアとして様々なプログラミング言語を試す中で、Rubyの柔軟性や書く楽しみを実感した。」とご自身の経験を紹介されました。また木戸様（ユビレジ）はエンジニアや社員、そして商品をご利用頂いている地域的美容室やアパレルのお店にも感謝の言葉を表現し、周りの皆様に支えられて頂いた賞と感激を受けておりました。

## ●大賞、特別賞受賞者プレゼンテーション

大賞、特別賞に輝いた各企業からは、受賞サービスのプレゼンテーションを行っていただきました。

HipByteのSansonetti様は、RUBYMOTIONを使えば、モバイルアプリの開発者を外注する必要がなくなるRubyの魅力を紹介され、GMOペパボ株式会社の佐藤様は、ハンドメイドマーケット「minne」について「現在はユーザーの9割が女性だが、今後は民芸品などを取り扱うことで、地方創生にも取り組んでいきたい。」と今後の夢や目標を語り、株式会社マネーフォワードの辻様は、「お金を前へ。人生をもっと前へ。」をコンセプトに、今後もRubyという良いツールを利用し、お金の問題をテクノロジーで解決したいと、これからの目標をコメントされました。

大賞を受賞したトレジャーデータ株式会社の古橋様は、「Rubyを活用することで、プラグイン機構による高いカスタマイズ性を実現できた。」とRubyの強みを語り、株式会社ユビレジの木戸様は、iPadで使えるPOSレジシステム「ユビレジ」について説明された上で、Ruby言語の柔軟性が開発スピードに貢献したと語られました。

## ●審査員長挨拶・まつもとゆきひろ氏

大会の閉会の挨拶として、審査員長であるまつもと氏は「第1回ということや、応募企業の業界が多岐に渡ることから、委員会内での選定は困難を極めた。」と述べられました。それぞれの受賞企業への選定理由を語りながらも、今回応募のあった全ての企業のサービスもとても素晴らしいものであったと報告され、未来への期待を膨らませておりました。

